

(学年) 第2学年, (教科・科目) 地理歴史・日本史B

一斉学習

(単元) 応仁の乱と国一揆

(本時のねらい)

応仁の乱と、その後の山城国一揆・加賀一向一揆を大きな時代の流れの中に位置づけ理解する。応仁の乱の背景と経過に着目し、支配層の分裂・弱体化と京都の荒廃を理解する。

(ICT活用方法)

応仁の乱について、西軍・東軍の位置と、京都中心部がどのように変化したのか、資料集の地図を用いて考えさせる。従来は口頭で資料集のページを指定し、各自考察させ、指名して発表させていた。電子黒板に投影することにより、被災範囲や室町殿・内裏との位置関係、「御構」の意味などを詳細に解説する。

(本時の展開)

| 時間 | 学習活動 | 指導事項 | ICT活用方法 |
|------------|--------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 導入 10分 | ・ 応仁の乱の流れを理解する。 | ・ 背景と経過を説明する。 | |
| 展開 40分 | ・ 被災範囲がなぜ上京に集中しているか、考える。 | ・ 西軍・東軍の位置と、室町殿・内裏との距離に着目させる。 | ・ 電子黒板に「戦場と化した都」(資料集より)を投影する。 |
| まとめ 10分 | ・ 応仁の乱の歴史的意義を理解する。 | ・ 京都の荒廃が文化の地方伝播につながったことを押さえる。 | |

(授業の様子)



教材投影方法



生徒の様子

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

被災範囲が上京に集中していることや、寺社の被災が激しいことを確認できた。今後は明確な問いを設定し、個人の考察からグループでの話し合いによる理解の深まりにつなげたい。